

令和7年3月11日（火曜日）

予算決算委員会厚生分科会

第3委員会室

出席委員

白井義一、塚本進介、前川藤枝、常盤真功、
駒田かすみ、竹中隆一、東影 昭、大西陽介

欠席委員

高見千咲

【厚生委員会（市民局）の審査】

開会

11時32分

市民局

11時32分

送付議案説明

- ・議案第1号 令和7年度姫路市一般会計予算
- ・議案第12号 令和6年度姫路市一般会計補正予算
（第9回）

質疑・質問

11時39分

（質問）

国際女性デーイベントと国際交流スプリングフェスティバルは開催場所がいずれもイーグレひめじ内で、時期も近接しているが、両イベントを連携させることについてはどのように考えているのか。

（答弁）

両イベントの連携は集客を図る上で有効であると考えられることから、関係部局と協議の上、可能な範囲で連携させて開催したい。

（要望）

趣旨の異なるイベントとの連携により集客増が見込めるだけでなく、男女共同参画に興味がない市民が国際女性デーイベントに参加するきっかけにもなると思われることから、効果的な啓発となるよう関係部局としっかりと協力されたい。

（質問）

令和7年度新規・拡充事業として平成6年度建築の高岡西公民館及び南大津公民館の大規模改修に向けた実施設計が予定されているが、平成6年度より以前に建築された公民館は全て改修済みなのか。

（答弁）

基本的には老朽度合い等を確認し、優先順位を決定した上で順次改修しているが、事情により平成6年度

以前に建築された公民館であっても耐震改修工事が実施されていない場合がある。

（要望）

地域ごとに事情があるとは思われるが、築年数を改修の基準としているのであれば、安全性とのバランスを取りながらしっかりと対応してもらいたい。

（質問）

平成6年度以前に建築された公民館であっても耐震改修工事が未実施である場合というのは、どのような場合なのか。

（答弁）

地域からの要望により移転を検討中の場合などである。

（要望）

公民館ごとの改修状況が分かる資料を提出してもらいたい。

（分科会終了後資料配付）

（質問）

支所は地域割のような形で設置されており、地域住民と関わりながら活動するのではなくサービスセンターのように事務的な役割を担う施設となっていることを踏まえると、利用者にとっての分かりやすさの観点からは中央支所をイーグレひめじ内に移転した後も中央支所という名称を継続することがよいのか疑問である。

また、現在、一部の人にしか利用されていない中央支所よりも全市から訪れられている駅前市役所のほうが利用者が多いことから、今後、駅前市役所と統合するのであれば、名称は中央支所ではなく駅前支所とするほうがよいのではないかと。

両事務所の統合に向けた検討の際は、もっと斬新な名称とすることも含め、新事務所の名称変更についても検討してもらいたいと思うがどうか。

（答弁）

施設の統合は本市で初の取組になると思われるので、名称変更についても十分検討していきたい。

役職定年者挨拶

11時48分

市民局終了

11時51分

【厚生委員会（健康福祉局）の審査】

健康福祉局

13時41分

送付議案説明

- ・議案第 1 号 令和 7 年度姫路市一般会計予算
- ・議案第 4 号 令和 7 年度姫路市国民健康保険事業特別会計予算
- ・議案第 5 号 令和 7 年度姫路市介護保険事業特別会計予算
- ・議案第 6 号 令和 7 年度姫路市後期高齢者医療事業特別会計予算
- ・議案第 12 号 令和 6 年度姫路市一般会計補正予算（第 9 回）
- ・議案第 14 号 令和 6 年度姫路市国民健康保険事業特別会計補正予算（第 1 回）
- ・議案第 15 号 令和 6 年度姫路市介護保険事業特別会計補正予算（第 1 回）

質疑・質問

13時56分

（質問）

令和7年度新規事業の卵子凍結費用の助成について、本市では卵子凍結を実施している医療機関は何か所あるのか。

（答弁）

受精卵の凍結を実施している病院は4か所あるものの、卵子凍結を実施している医療機関は1か所である。

（質問）

本事業の趣旨には産婦人科を誘致することや、現在卵子凍結を実施している病院を応援することも含まれるのか。

（答弁）

今後、ますますキャリアを築きたい女性が多くなると思われることから、ライフプランの1つとして卵子凍結という選択をしやすくすることを本事業の趣旨と考えている。

（質問）

本事業の対象は市内の医療機関のみなのか。

（答弁）

医師会とも相談の上、制度の詳細を決定していきたい。

（質問）

私の周りには、卵子凍結をするならより高い技術を持っていたり、実績のある医療機関にお願いしたいという意見を持つ人が多い。医療機関を限定してしまう

と利用希望者のニーズに合わない場合があるのではないのか。

（答弁）

利用希望者の意見や医師等の意見を踏まえ、対象とする医療機関については慎重に考えていきたいと思っている。

（要望）

趣旨に沿った形で実施し、よい事業にしてもらいたい。

（質問）

令和7年度新規事業としてゲイズファインダーの活用が挙げられており、発達障害等の相談対応の支援ツールとして活用するとのことだが、本事業の経費として計上されている21万1,000円は同機器の購入費なのか。

（答弁）

同機器のリース料及び同機器を扱える人の派遣にかかる費用である。

（質問）

高齢者や障害者を対象とした交通助成デジタルチケットの導入準備について、スマートフォン上に表示した二次元コードを交通事業者が読み込むことでデジタルチケットを利用できるようにするとのことであるが、スマートフォンを所持していない対象者にはどのように対応しようと考えているのか。

（答弁）

スマートフォンの利用に加え、対象者全員に二次元コードが印刷されたプラスチック製カードの配付を検討しており、スマートフォンを所持していない対象者には当該カードを使用してもらいたいと考えている。

（質問）

本市では带状疱疹ワクチンの接種者に対して4,000円の費用助成を行っているが、同ワクチンのB類定期予防接種化を受け、自己負担額をどのようにしようと考えているのか。

（答弁）

今後の自己負担額については、B類定期予防接種においてワクチン価格相当額を自己負担とするという考えを基に現在検討中である。

（要望）

带状疱疹ワクチンの接種費用は 8,000 円から 5 万円程度とワクチンの種類によって大きく異なるものの、他都市においていずれのワクチンを選択しても接種費用の半額程度を自己負担とすることを予定している事例があることを念頭に置き、本市においてもできる限り自己負担額を安価に抑えられるよう検討されたい。

(質問)

令和 7 年 1 月に開設したはぐくみ相談室について、多機関、多職種からなる支援体制の整備を行うとのことであるが、具体的にどのような体制にしようと考えているのか。

(答弁)

現在、はぐくみ相談室に配置されている心理士、社会福祉士、保健師に加え、こども未来局や教育委員会と連携し、保育士や教員の資格を持つ職員の協力を得られる体制としたいと考えている。

(要望)

発達に不安がある子どもを持ち、悩んでいる保護者は多数いると思われることから、関係機関としっかりと連携し、充実した体制となるよう取り組まれない。

(質問)

姫路獨協大学内に設置予定のひめどくランチについて、同施設は発達に不安を抱える子どもの保護者が訪れる施設なのか、それとも専門職が集まる施設なのか。

(答弁)

同施設に設置したプレイルームで遊びを通じた療育の前段階のようなことをしてもらう。

また、姫路獨協大学の専門職の教員に保育所や幼稚園を訪問してもらい保育の指導をしてもらう。

(質問)

大学敷地内の同施設まで車両を乗り入れることが可能なか心配だが、利用者に対する大学内の経路案内をどのように行おうと考えているのか。

(答弁)

現在、大学側と連携して詳細な案内図を作成中である。

(要望)

訪れやすい経路とするとともに、分かりやすい案内に努められたい。

(質問)

令和7年度主要事業であるエンディングサポート事業は、身寄りがなく自身の葬儀等に不安がある人を支援するもので、所得等の制限があるとのことだが、所得等にかかわらず人生の終えんに不安を感じている人からの相談を受ける窓口は設置していないのか。

(答弁)

高齢者支援課が事前予約をした相談希望者からの相談を所得等にかかわらず受けている。1人当たり1時間半程度の面談を行う中で不安の解消を図り、希望があれば市の終活情報登録を案内している。

(意見)

高齢者支援課が行っている相談対応も終活支援の一環であると思われる。相談を希望する人がインターネットで検索した際に所得等の制限がある事業ばかりが表示されてしまうと、相談窓口がないと思われてしまわないか心配である。

(質問)

行政に関わることで終活に関する詐欺事件が起これにくくなることも期待される中で24万4,000円という予算は少ないと感じるが、対象者を何人ぐらいと想定しているのか。

(答弁)

大規模な広報を行い、多くの市民に利用してもらうのではなく、不安を感じた市民に安心して利用してもらいたいと考えており、予算はパンフレットや申請書の印刷にかかる経費を計上している。

利用実績については、令和6年10月から令和7年2月末までで34人の相談を受け、そのうち7人の終活情報登録につながっている。

(要望)

非常に需要があると思われるため、頑張ってもらいたい。

(質問)

医療的ケア児等コーディネーターによる相談体制を整備することとのことだが、同コーディネーターはどのようなことを行うのか。

(答弁)

保健、医療、福祉等の関連分野を総合的に調整することを予定している。

(質問)

同コーディネーターは学校の教員の対応も行うのか。

(答弁)

そうである。

(質問)

新型コロナウイルスの予防接種に係る健康被害給付金負担金として2億2,752万円が計上されているが、健康被害は何件発生したのか。

(答弁)

令和7年1月31日時点で健康被害が認定された人数は38人であるが、申請を受け付けてから承認等の結果が出るまでに時間を要しており、予算は現在申請中の人が全員認定された場合を想定して計上している。

(要望)

認定された人にしっかりと対応してもらいたい。

(質問)

令和6年度の高齢者バス等優待乗車助成事業の見直しに際して混乱は生じなかったのか。

(答弁)

同事業が令和6年10月以降見直されることについて、4月下旬に対象者に通知したところかなり混乱したが、見直しを見据えた交通機関の選択を6月末までに行ってもらい、9月末までには選択した交通助成券を送付できた。最近はタクシーチケットの利用に関する相談などがあるものの、混乱は落ち着いている。

なお、I C O C Aカードについては、J R 西日本による協力の下、10月に約1週間姫路駅にブースを設け、払戻し対応を行った。

(要望)

再度混乱することのないよう、今後のデジタルチケットの導入の際はデジタル・ディバイド対策と並行してしっかりと進めてもらいたい。

(質問)

令和7年度新規事業の障害者への合理的配慮に係る支援について、障害者の社会的障壁を除去するために民間事業者が行う取組に必要な費用を助成することだが、具体的にどのような助成を想定しているのか。

(答弁)

点字メニュー等のコミュニケーションツールの作成にかかる費用への助成として限度額5万円のものや、

筆談ボードや折り畳み式スロープ等の購入費用への助成として限度額10万円のもの、また、スロープや手すりの設置にかかる工事費用の助成として限度額20万円のものを、いずれも助成率2分の1で実施しようと考えている。

(要望)

助成内容が分かる資料を提出してもらいたい。

(分科会終了後資料配付)

(質問)

筆談ボードとはどのようなものなのか。

(答弁)

画面に文字などを手書きできるような電子メモ帳を考えている。

(質問)

幾らくらいするものなのか。

(答弁)

1万円以内で買えるのではないかと想定している。

(質問)

予算額が200万円となっているが、飲食店などが筆談ボードを置き始めたらかなり申請が多くなるのではないのか。

(答弁)

申請が多くなれば補正予算等についても検討したい。

役職定年者及び退職者挨拶 14時21分
健康福祉局終了 14時24分

【厚生委員会の意見取りまとめ】

意見取りまとめ 14時29分

・分科会長報告について

分科会長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了 14時31分

閉会 14時31分